

沢さわだ田

自治センターだより

平成27年 3月号

◇編集と発行 沢田自治センター

電話 26-0696

FAX 26-3049

◇発行責任者 : センター長

増子 美知夫

沢田中学校閉校に伴う学校施設再利用について



開校から67年の歴史を持つ沢田中学校が、統合により今年度を限りに閉校となります。閉校事業実行委員会は、閉校記念誌の発行、記念碑の建立、記念壁画の作製と各部会が奔走し、3月28日(土)の閉校式の準備をすすめています。

閉校式の終了とともに実行委員会は解散となりますが、その後は学校施設の再利用の問題が焦点となります。再利用についてはどのような形であれ、管理上の問題やリフォーム等の課題といったたいへん難しいものがあります。

2月26日(木)に沢田地域自治協議会設立に向けた中間報告会が開催され、会終了後に、出席した区長をはじめ地域団体の代表者に対し、校舎施設の再利用について町としての考え方を役場の関係課から説明がありました。

これによれば、老朽はなほだしい沢田児童館と自治センター機能を合わせて学校施設に移し、体育館や校庭の管理を含めて有効に活用するというものです。概ねこの方向で推移するにしても、施設内部の構造的再生などの細かな課題が多くあるため、実現までには1年以上の時間を要することになります。

いずれにしても、地域のみなさんの意見やアイデアを伺いながら、より効果的な利活用に向けて着実に進めていければと思います。

*** **

ミニディーサービスふれあい広場 「白鳥の会」

運営委員 (ボランティアさん) 募っています。

外出の少ない高齢者の方が、介護予防生活支援事業(ふれあい広場)を通して地域社会との交流を促進し、要介護状態になることを予防することを目的として長く継続して実施されている「白鳥の会」ですが、このところボランティアの方が少なくなり、毎月の運営に支障を来している状況があります。

年間9回の開催でありますので、お一人年2回程度の奉仕活動で時間も午前9時~午後1時までとなっています。運営に携わることによって、地区内の多くの方々との交流も図られ、新しい人間関係もつくれるコミュニティ広場でもあります。

運営に参加してみたいという方、沢田自治センターまでご連絡ください。

26-0696

沢田竹資源開発研究会情報

沢田「長寿ぎんなん」が意外なところで注目を集めています。

真明田の野崎正清さんが育てた樹齢40～50年の見事なイチョウの木。今季は全国的に大豊作とあって、約60本のすべての木はずずなりの景観を呈しました。

野崎さんから委託を受けた竹資源開発研究会は、長寿会の協力でぎんなん拾いに精を出し、洗浄と乾燥をへて仕上げた数量は850キロ。それでも全体の5分の一程度でした。しかし、期待していた取引先からの発注は皆無の状態、生産に携わった誰もが意気消沈してしまいました。

これを救ってくれたのが地域のみなさんで、自ら購入すると同時にいろんな情報を寄せてくれました。役場関係者の業者紹介も効果的でした。紹介された取引先にサンプルを提供しながら商談がいくつかまとまり、2LからSまで4サイズでパック詰めして納品しました。

現在、「道の駅 四倉港」で450パック、チェーン店「河内屋商店」で600パック、栃木の植木センターで400パック、大阪方面に40キロを納品し、品質面で高い評価をいただきました。

野崎さんと竹資源開発は、さらに高品質のぎんなんをめざして、このほどイチョウ林に3トンの竹肥料と500キロの有機肥料（鶏フン）を施しました。今年の秋が楽しみです。



ぎんなんを拾う長寿会のみなさん



寒い中で洗浄にはげむ竹資源会員



パック詰めし、発送準備中のぎんなん



竹チップ肥料の散布

3月の行事予定

- 3日（火） ・書道教室（A） 13：30～
・経営所得安定対策説明会 18：30～
- 4日（水） ・民生児童委員方部会 9：00～
- 10日（火） ・福寿会 9：30～ ・書道教室（B） 13：30～
・白鳥の会事前会議（4班） 19：00～
- 17日（火） ・白鳥の会（4班） 9：00～ ・書道教室（A） 15：30～
- 24日（火） ・書道教室（B） 15：30～
- 26日（木） ・白鳥の会全大会 19：00～